

最上位目標 「子どもの Well-being の実現」

学校教育目標 「心豊かに、自他を高め、章を成す」

～変化に向き合い、信頼される優しさを持ち、社会に貢献する～



SEISHO PRESS

Trying for your dreams

佐賀市立成章中学校

学校だより 第10号

令和8年9月25日

文責 校長 馬郡直樹

2学期 スタート 主体的な行動が支える力になる

9月1日（火）、大きな事故やケガもなく、成章中に生徒の元気な姿が戻ってきて大変うれしく思います。朝、校門でさわやかな挨拶を交わすことができ、わくわくしながら2学期のスタートを切ることができました。始業式は、暑熱対策のためにリモートで開催しました。校長からは、災害を柱にした話をしました。以下、内容を要約したものです。

先月、熊本県で最大震度7を観測する地震が発生した。報道などを見て、自分がその立場だったらどのように行動するかを考えるだけでも命を守る行動につながると思う。日本は、4つのプレートの影響を受け各地に活断層を抱える地震大国である。南海トラフ巨大地震は今後30年の間に高い確率で発生すると想定されており、首都直下地震による死者は最大1万8千人におよぶといわれている。我々は過去の災害からどうすれば命を守れるかという教訓を学び、起こりうる災害に備え、正しく恐れることが大切である。

2016年の熊本地震で多くの尊い命が失われた。建物の倒壊や家具の下敷きなどで亡くなられた「直接死」は約50人、避難のストレスから体調が悪化するなどした「災害関連死」は約200人で、直接死の約4倍。つまり、地震の激しい揺れから自分の命を守った後、避難生活の中で「いかに命をつないでいくか」が重要になってくる。避難生活では、お互いが助け合い、命をつなぐ工夫し、地域で支えあいながら復興に向かうことが必要なことである。

「避難生活での命をつなぐ現場」において、大きな力を発揮してきたのが小学生や中学生だった。例えば、2005年福岡県沖地震では、中学生が、大人に指示される前に炊き出しのための準備をしたり、体育館に畳を敷き詰めたりと、避難所の設営に大きく貢献した。また、2011年東日本大震災の際には、被災した小学生が「ファイト新聞」という手書きの新聞を発行し、温かいニュースを取材し、避難所の人々の心を大きく元気づけた。しかも震災からわずか4日後に第1号を発行したということ。

このような小中学生の行動は、普段送っている学校生活などの中で、自分たちで考え、企画し、活動するといった主体的な行動から繋がっていると思う。

2学期は、文化発表会など大きな行事が目白押しである。「周りの仲間を巻き込んで、行事や授業を最高の形に創り上げる」。このように自分の行動を高めていってほしい。

日常の学校生活で「自分たちの手で学校やクラスをよくしよう」と主体的な行動こそが、いざという災害の時にも、自分の命を守り、大切な家族や地域を支える力となる。

2学期から、校時表の変更をしています。

1学期末に校時限の変更の試行を行いました。事後のアンケート結果からは、保護者・生徒・教職員ともおおむね変更に肯定的な意見でしたので、一部修正をして2学期からの校時表を作成しました。

通常校時では、帰りの会終了時刻が15時30分となります。それに伴い9月、10月は部活動完全下校時刻がそれぞれ17時、16時40分となり、完全下校時刻から30分後を目途に留守番電話対応となりますので、ご理解をよろしくお願いします。

1年生 福祉体験

みんなが暮らしやすい街を目指して

9月16日（水）に1年生が福祉体験を行いました。NHK 佐賀放送局でも報道されました。

まず、佐賀県さがすたいる担当の方から、多様な人々がこの町で生活している、みんなが過ごしやすい佐賀県を目指した取り組みについて紹介されました。エレベーターや自動ドアが誰のためのものかを考えながら、ハードの優しさとハートの優しさ（思いやりの気持ち）の2つのバリアフリーを目指すこと、「何かお手伝いすることはありますか」と声掛けすることを実行して、みんなが過ごしやすい町にしていくことをお話されました。

次に、「〇〇な障がい者の会」代表の内田勝也さんが「みんなが暮らしやすい街になるために」という演題で講演をしていただきました。内容を紹介します。

① 自身の生き立ち

これまでに骨折を150回以上手術も20回以上していること、本庄小・城西中と進学し、友人の支えで通常の学級で生活してきたこと、佐賀市役所に入庁し路線バスで通勤していること

② 「やればできる」・・・いろいろな場面で一步踏み出してチャレンジを

出かけたいたいという思いで国内・国外問わずあちこちに出かけていること、パラスポーツにも取り組み、2024全障スポでは2種目に出場し、金メダルを取ったことなどを通してやればできることがわかった。チャレンジすることの大切さを伝えたい。

③ 車いすを使用していて困る3つの「き」

高さ・段差・狭さ … 生活している中での障がいになる

④ みんなが共に生きる社会を目指して

「人」の字が人と人との支えあいを表しているように、「気づき・考え・行動し・聞く」ことを通して、ハードのバリアフリーを実行してほしい。まずは、「何かお手伝いすることがありますか」と声をかけてほしい。この言葉は相手の心の扉を開く魔法の言葉である。ハードは変えられなくても、ハートは今日からでも実行できる。みなさんの力で佐賀らしい優しい街に！

講話の後、車いす体験を行いました。生徒の感想を紹介します。

(0さん) 車いすに乗っていると、取りたくても取れないという自分のふがいなさを感じました。ですが、介助してくれる人がいると安心できることがわかりました。今後困っている人がいたら、今日習ったことを生かし「何かお手伝いできることはありますか」と言ってみたいと思います。

画像は配布した通信で、御確認ください。

車いす体験の様子 @本校体育館

ボランティア活動をがんばっています。

ボランティア活動は、地域や他者のためだけでなく、自分自身が成長し、様々な人と出会い、協力し合うことで人とのつながりを広げることができます。9月12日（土）に開催された「勸興夕涼み会」において、3年生14人がボランティアとして活躍しました。10月に開催される神野校区民スポーツ大会や勸興校区ふれあい大運動会からもボランティア募集が来ています。

このような機会にぜひ地域に貢献するとともに、自分を高めてほしいと思います。

佐賀市学校教育ビジョン 2025
子どものwell-beingの実現
～「私も」「あなたも」「今も」「未来も」自分らしく輝く～

最上位目標